

---

# 仮面ライダーダーク 闇を纏いし戦士

夜遊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーダーク 闇を纏いし戦士

### 【Nコード】

N0105Z

### 【作者名】

夜遊

### 【あらすじ】

ガイアメモリ誕生時の話が書きたく書かせていただきました。初めての作品です。で至らない点が多々あると思いますがご了承下さい。暇な時に投稿しますので速度は遅くなりますが完結を目指しますので応援お願いします！！またこの作品にはオリジナルライダー、独自解釈、妄想だらけ、です。また仮面ライダーと書いていますがライダーは最初の方は登場しません。あしからず。

## プロローグ以前の話（前書き）

初投稿です！頑張ります！！（ 0、 ）／

## プロローグ以前の話

ガイアメモリ、その1つ1つに地球の記憶が保存されたパンドラの箱。

人々は力を求めその箱に手を伸ばし禁じられた蓋を開けドーパントへ姿を変える。ある者は欲望のため、ある者は復讐のため、ある者は人々を守るため…代償は己の運命とは知らずに…。

この物語はガイアメモリ誕生時の1つの物語、1人の兵士の物語、そして語られない仮面ライダー、ダークの物語である。

時とはある無人島、正確にはその島に向かう飛行機の中から始まる。

## プロローグ以前の話（後書き）

いかがでしょうか？

ちなみに作者と主人公の名前は同じですが別人ですので！！  
これからもよろしくお願いします！！

**名前、煙草、戦場（前書き）**

続けて投稿です！

いや疲れまっすねー文考えるの

## 名前、煙草、戦場

僅かに揺れる室内に彼らはいた。

彼らは国や性別はバラバラだが、それぞれ黒を主とした装備を施し、脇には各々の獲物を置いていた。

室内に漂う空気は重く、苦しかった。

彼らに特定の名称は無い、あるのはその時に書類作成時に適当に付けたその場限りの名称のみである。

合わせて十数人の集団にその男はいた。

男は黒髪を短く刈り揃え、左耳にピアスを付けていた。

彼も、いや彼だけではないが、名前を持たない1人だった。

彼もまたその場限りの名前があてがわれ、次の任務の時にはまた新しい名前が付けられる。その繰り返し、だが過去に1つだけ気に入った名前あり、以降、彼はその名前をあてがわれた名前の他に使っていた。

彼の名前は「夜遊」。

夜を遊ぶ。ふざけた名前だとわかっていたが何故かしっくりくるのだった。

いつ、変わるかわからない名前だが今現在、それが彼の名前だった。

煙草を吸いたい誘惑はその恩恵を味わった者に勝つ手段を与え無い、いくら歴戦の戦士であってもその誘惑には勝てなかった。

夜遊もまたその1人である。

彼は何本目かわからない煙草に火を付け煙からニコチンを体内に吸収していた。

そんな彼を戒める者はいない、彼等は煙草が何も身体に害を及ぼすだけの物ではない事を知っていたし、ささやかな幸せを制限する

権利は無いことも承知していた。

よって室内には夜遊の他数人が吸う煙草の煙が充満していた。

「相変わらず好きだね、お前さんも」

夜遊の隣に座っていた1人の男が話かけてきた。

肩まで金髪を伸ばし顎に整えた髭を生やした米国出身らしき男もまた煙草を吹かしていた。

「お互い様だろ、ラリー」

「今はジャックだよ、お前さんは夜遊でいいのかい？」

「できればそうしてくれるとありがたい」

この二人は簡単に言う「戦友」だ、歳も近く互いに尊敬しあい、よき友だった。しかしそれまでである。深すぎる友情は失敗を呼ぶ。そして失敗は死を意味していた。よって彼等は互いに踏み込まない。

今回の任務はとあるテロリストの排除。無人の島に潜伏している数名の罪人を平和の為に殺害する。

平和の為に必要な仕事。決して表に出せない仕事、人が知ったら後ろ指を刺される仕事。それが彼、夜遊の仕事であった。

気がつけば微かに揺れていた室内は完全に動きを止めていた。

夜遊は何も言わず煙草の火を消し、ただ歩き出した。

戦場へと。



## 名前、煙草、戦場（後書き）

いかかですか？

次の話は戦闘シーンです。

といっても仮面ライダーが出る話ではないんですけどね。

ちなみに主人公、夜遊は青年より少し年上、最低でも煙草を吸える年齢より上ですので！ダメ未成年喫煙！！

## 現在の戦場（前書き）

戦闘シーンです！仮面ライダーはいないですが……というよりも怪物は出てきません、怪物のような男の話です。

このシーンにはグロテスクなシーンが含まれています、気を付けてください！！

あと駄文で申し訳ないです。

## 現在の戦場

夜遊等部隊が無人島に到着して1時間が過ぎていた、今現在彼らは密林の中テロ組織と激しい銃撃戦を繰り広げている。

本来静かで緑の香を漂わせている筈の森の中には銃声の激音と仲間や敵の死体が放つ血の匂いが充満していた。

夜遊は木の陰に隠れながらマシンガンを脇に抱えタイミングを計っていた。

視界の端にはジャックが同じように銃撃戦を行っていた。ほかの仲間も同じだ。

戦争が盛んだった時代に比べ現在は平和になった。なんて迷信だ、時代が進むにつれ科学が進歩し、同時に兵器科学も飛躍的に成長を遂げた。

これらを用いて時代はさらに混沌を迎え、昔の鉛玉の雨など現在の戦場の弾丸の嵐に比べたら優しいものだろう。

どこの国の言葉か解らないが盛んに敵が騒いでいる、何かを呼んでいるようだ。

聴覚器官から得られる情報に限界を感じ、夜遊は木の陰から様子を覗いた。

「!!」

1人の敵が手に持っている銀の筒を目にした途端、夜遊は木の陰から飛び出し弾丸の嵐の中を走り出した。

変化はすぐに訪れた。

最初は爆音、  
次は強烈な爆風、  
最後に強力な力の風が夜遊を襲った。

もし逃げるのが少しでも遅かったら爆発により身体が引き裂かれていただろう、仲間の何名かは逃げ遅れ身体のパーツが無くなっていた。

地面に倒れた夜遊はすぐさま近くの巨木に身を滑り込ませる、体中の骨が軋みを上げたがそんな些細なことを気にしていたら、待っているのは弾丸に身を引き裂かれる確実な死のみだ。

「やっこさん戦争でも起こすつもりかよ!?!」

横には同じく爆発から逃れたジャックがいた。

「普通、ランチャー持ち出すか!?! 狂ってやがる!?!」

「人の事は言えないがな」

「はあ?」

ジャックを黙らしたのはまたもや爆音だった、しかし今度は離れたところからだが。

「なんだ?」

「確かここに来るときランチャーを愛しそうに撫でているやつがいた、どうやらそいつがやったんだろう」

草むらの中からうれしそうに吠える男が現れるのが見えた。

「狂ってやがる…」

「だが奴らの攻撃が止まった！！行くぞ」

後ろで止める声が聞こえたが夜遊は無視し、マシンガンを乱射させながら敵陣に突っ込む！！

乱射により敵の何人かに風穴を開けた、しかしそこまでである。

マシンガンから弾が発射されなくなったのだ、弾切れか、弾詰まりか、理由はわからないが彼のもつ武器はただの鉄の固まりになったのは間違いないなかった。

夜遊の反応は早かった使えない武器はすぐ破棄し、腰からサバイバルナイフを引き抜きろくに目標を見ずに投げる。

更に飛び上がりながら空中で2本目を投げる。

夜遊がテロリストの集団の中心に着地するまで約5秒、着地の瞬間、夜遊は一瞬ナイフの行方を探した。

2本のサバイバルナイフは吸い寄せられるようにテロリスト2人の眉間を射ぬいている。

残りの敵は3人！！

夜遊は1人の敵の懐に一気に距離を詰め拳を心臓の位置に叩き込んだ、さらに体制を崩した瞬間顔面に左足の膝をぶつけ、大きくのけ反ったところに両手で頭を抱え捻った。

敵の口から軽く空気が抜ける音とともに体内から首の骨が外れるくぐもった音が聞こえる。

残り2人。

敵の1人が銃を構え、引き金を引く、夜遊によける暇はない、だからあえて弾丸を真正面から迎えた。

抱えたままの死体を盾の代わりにして。

砂の入った皮袋をアイスピックで何度も突いたような音と感触を確かめながら距離を詰め、死体を敵に向け放り投げる。意表をつかれ一瞬敵の攻撃が止む、その一瞬で夜遊は地面に転がっていたナイフを手にし迷いなく振るう、正確には相手の首筋、耳の下、頸動脈がある部分に。

刹那、敵の切られた個所から大量の真っ赤な液体がまるで噴水のよう吹き出し、魂と共に身体から抜けて行った。

あと1人。

最後の1人を視界の端にとらえ、ナイフを投げつけようとした瞬間、乾いた破裂音が響いた、夜遊には聞きなれた音「銃声」である。銃から放たれた弾丸は目標の頭部を静かに、激しく破壊した。

額から血液か脳の断片かわからない物がはじけ飛ぶ、

夜遊はその光景を

目の前で見ていた。

敵が倒れる、後ろから足音が聞こえ振り向くとそこには

「たっく1人で手柄とるなよ、報酬が減るだろうが？」

ライフルを担いだジャックがいた。

## 現在の戦場（後書き）

気が付いたらいつもの倍書いていた。

わかりにくくて申し訳ないです。

書いている途中で「こんなの入れたらよくね？」と本来の下書きした物に追加していったら文が予定の倍に&形が無茶苦茶に……

こんな感じで続くと思います。が応援お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0105z/>

---

仮面ライダーダーク 闇を纏いし戦士

2011年12月2日02時45分発行